

読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

高梁市成羽町吹屋地区の青年グループが地元の国重要伝統的建造物群保存地区で空き家再生に取り組んでいます。記事を読んで質問に答えましょう。

空き家を交流拠点に

高梁市成羽町吹屋地区の青年グループ・中野吹屋青年団が、地元の国重要伝統的建造物群保存地区で空き家再生に取り組んでいる。市内の高校生も加わって建物をリノベーション（改修）し、地域交流の拠点施設として活用していく考えだ。（岡崎創史）

吹屋地区玄関口

日本遺産「『ジャパ ンレッド』発祥の地」10月17日、床の張り替えの構成文化財でもある作業を行った。吹屋地区はベンガラ 作業には「総合的な探色の美しい町並みで知 究の時間」で空き家などられる。その玄関口について学ぶ高梁高の位置する木造2階の 2年生5人も参加。電動空き家は雑貨店として 工具を使って床にねじを2009年から営業 打ち、板を張り付けていしてきたが、4年ほど ぎ、イベントで使える状態に閉店。観光客を最 態に仕上げた。「隙間が初に出迎える景観を できないよう張るのに守ろうと、同青年団が 苦労した。吹屋の活性化所有者から借り受け、 につなげばうれしい」再整備することにし と同校の川上裕生さん（17）。

空き家の築年数是不 明ながら、大正期の建 題解決や魅力向上につな築とみられる。このた がる活動を市がサポートめ老朽化が激しい2階 する市民提案型まちづくは使わず、1階部分約 り支援事業の一環。今後60平方メートルのみ改修す も改裝作業を続けなが

青年団 高梁高生と改修

ら、「吹屋交流・移住・チャレンジプロジェクト」と銘打ち、イベントやワークショップの会場として希望者に貸し出す。ヨガや茶会、着物の着付け、食べ歩きできる飲食の販売など、歴史情緒あふれる町並みとの調和を図れるような企画を想定して募集。吹屋地区に関心がある人との接点をつくる狙いもあるという。

同青年団の川上雅美 団長（48）は「吹屋地区の入り口にある好立地を生かし、観光客に地域の魅力を伝える場にした い」と期待する。

みんながくつろげる 場所になりそうだね



11月25日付、山陽新聞高梁・新見圏版
レイアウトを変更しました

Q1 ★★☆☆

青年グループが空き家の再生に 取り組むのはなぜですか。第2段 落に注目して理解しましょう。

Q2 ★☆☆☆

高梁高の生徒はどのような作業 に協力しましたか。第4段落 を 読んで答えましょう。

Q3 ★★☆☆

再生した空き家の活用方法を周 りの人と一緒に考えてみましょ う。

★の数は問題の難易度を表しています。